

(別紙1-1-2)

団体名：日本防災士会 京都府支部

具体的にどのような事業に取り組むのかを教えてください。＜事業内容・地域課題との関連性・対象者・協力者・会場・開催頻度など＞					
防災カフェ事業として ①防災カフェを始めよう×2回 ②避難所運営HUGゲーム×3回 ③防災キャンプ(屋内) ④防災力アップキャンプ(屋外) ⑤聴覚障害者の日常と災害の備え ⑥タイムライン講習(YouTube配信) ⑦防災寺子屋(YouTube配信) ⑧マルチハザードマップ講習(YouTube配信) ⑨防災に関わる保険の講習(YouTube配信)					
名称	時期	内容	場所	対象者	参加予定人数
防災カフェを始めよう(北部)	9月ごろ	ワークショップ 防災に関心の無い地域住民に対してどのようなアプローチで伝えていくかを参加者全員で考えるワークショップ	福知山又は舞鶴	地域住民(会員を含む)	30名
防災カフェを始めよう(中部)	9月頃	ワークショップ 防災に関心の無い地域住民に対してどのようなアプローチで伝えていくかを参加者全員で考えるワークショップ	長岡京市	地域住民(会員を含む)	30名
避難所運営防災HUGゲーム	9月ごろ	避難所運営ゲームHUGを通じて地域の防災を考えるワークショップ	京丹後市	地域住民(会員を含む)	36名
避難所運営防災HUGゲーム	10月頃	避難所運営ゲームHUGを通じて地域の防災を考えるワークショップ	宮津市	地域住民(会員を含む)	36名
避難所運営防災HUGゲーム	10月頃	避難所運営ゲームHUGを通じて地域の防災を考えるワークショップ	綾部市	地域住民(会員を含む)	36名
「防災体験キャンプ」(屋内)	8月頃	家の耐震実験、家具の転倒防止、非常持ち出し袋、ポリ袋クッキング、段ボールベット作り、非常時のトイレの使い方	長岡京市	地域住民(会員を含む)	30名
「防災力アップキャンプ」(屋外)	10月頃	火起こし(マッチ、ファイヤースタータ、太陽光)、ポリ袋クッキング、ロープワーク、応急手当(三角巾)、応急担架(毛布)、ジャッキアップ	長岡京市	地域住民(会員を含む)	30名
聴覚障害者の日常と災害の備え	11月頃	災害時、障がい者にどの様に接するかが必要ですが、聴覚障害の場合、手話によりコミュニケーションをとる、外国人や高齢者で声の出にくい方、自らが出ない時の対応等を学ぶワークショップ	長岡京市	地域住民(会員を含む)	50名
タイムライン講習(YouTube配信)	11月頃	ハザードマップを用いて、自らの様々な洪水リスクを知り、どのような避難行動が必要か、また、どのようなタイミングで避難することが良いのかを自ら考える講座	京都府全域(オンライン)	地域住民(会員を含む)	100名

※事業のスケジュールについて、ご記入ください。事業の内容で複数分かれる場合は、名称ごとにスケジュールを分けてください。

※記入欄が不足する場合は、複数ページにまたがっても構いません。

防災寺子屋 (YouTube配信)	1月ごろ	一般的な防災知識を学ぶ講座	京都府全域 (オンライン)	地域住民 (会員を含む)	100名
マルチハザードマップ講習 (YouTube配信)	2月頃	京都マルチハザードマップの効率的な使い方の講座	京都府全域 (オンライン)	地域住民 (会員を含む)	100名
防災に関わる保険の講習 (YouTube配信)	2月頃	災害時に使える保険に関する知識を高める講座	京都府全域 (オンライン)	地域住民 (会員を含む)	100名

事業計画書 (スケジュールについて)

(※全項目を記入すること)